

## 第6回 日本海における大規模地震に関する調査検討会 議事要旨

日時：平成26年2月20日（木）10：00～12：00

場所：田中田村町ビル8階E会議室

## 1. 結果概要

- ・検討会やWGの議論を踏まえ修正を行った佐渡から北海道にかけての主要な海底断層のグルーピングを行うとともに、それらの結果を踏まえ最大規模の断層モデルの位置や長さについて、概ね了解が得られた。
- ・佐渡から西の主要な海底断層の位置や長さに関する検討状況の報告があり、作業方法等について、概ね了解が得られた。
- ・地殻構造の探査データ等、データが少ない部分について、今後収集し、内容の補完を検討するとともに、断層の傾斜やすべり角についてWGで検討する。
- ・断層パラメータの設定については、横ずれ成分の扱い、大すべり域の設定の考え方等、検討を更に深める。

## 2. 主な説明や意見等

### (1) 海底断層WGにおける検討状況

- ・検討会やWGの議論を踏まえ修正を行った佐渡から北海道にかけての主要な海底断層のグルーピングを行うとともに、それらの結果を踏まえ最大規模の断層モデルの位置や長さについて議論を行い、概ね了解が得られた。
- ・佐渡から西の主要な海底断層の位置や長さに関する検討状況の報告があり、作業方法等について議論を行い、概ね了解が得られた。
- ・傾斜について、西傾斜・東傾斜の双方の可能性がある場合は、その旨記載する。
- ・海底構造の探査データ等、データが少ない部分について、今後収集し、内容の補完を検討するとともに、断層の傾斜やすべり角についてWGで検討する。
- ・地震の規模（Mw）を推定する方式として、断層面積のみではなく断層長を使った方式についても検討すべきではないか。
- ・断層パラメータの設定については、横ずれ成分の扱い、大すべり域の設定の考え方等、検討を更に深めるべき。
- ・最大規模の津波高さを簡易的に計算する方法は、誤解されないよう丁寧に説明すべき。
- ・例えば、スケーリング（モーメントマグニチュードと平均すべり量の関係）の検討において、地殻構造を考慮すべきと考えられるが、現在の知見では難しい面もある。報告書を取りまとめるにあたり、今回の検討で採用した方式について、データが十分でない中で、なぜその方式を採用したかの理由や、今後も調査が必要であること等について丁寧に説明する必要がある。
- ・データの質と密度が一様でなく、不十分な部分があることを丁寧に説明すべき。
- ・津波堆積物データについては、最上位（主に18世紀以降）の物のみを使用し、内閣府での扱いと同様に津波堆積物の標高に2mを加えた値を比較に用いることとする。ただし、津波堆積物の標高については、津波襲来時から現在までの地盤の隆起量を推定し、補正を行う。

以上